

水のチカラで挑む、 唯一無二の飲料バリューチェーン



ハルナイノベーションセンター外観



同社のオリジナル商品



ハルナイノベーションセンター内観

ハルナビバレッジ 株式会社



代表取締役社長 青木 麻生 氏

ミネラルウォーターや緑茶など、飲料のプロデュース事業を展開するハルナグループ(青木麻生CEO)は、ハルナビバレッジ株式会社を中核に、マーケティングから企画・開発、生産、販売、物流まで、飲料に関わるバリューチェーンを一貫して担う独自のビジネスモデルを確立している。25年3月期におけるグループ売上高は357億円に達し、2年連続で過去最高を更新した。また、昨年12月には、イノベーション創出の中核拠点として「ハルナイノベーションセンター」を新設し、社内外のコミュニケーションの場としても重要な役割を果たしている。

同社の創業者である青木清志(前名誉会長(故人))は、96年、62歳で会社を設立した。奇しくもこの年、小型ペットボトルに関する自主規制が解除され、新たな市場の扉が開かれた時期でもあった。群馬の豊富な水量と優れた水質に感銘を受け、高崎市を創業の地に選定した。

創業者・清志の長男であり、グループCEOを務める青木氏は、69年3月生まれ。かつては食品系商社に勤務していたが、ある展示会で父・清志の働く姿を目の当たりにし、強く心を動かされて入社を決意した。「すべての人々に、飲料を通じて、これまで経験したことのない感動と体験を届ける」という「ハルナイズム」を受け継ぎ

ながら、着実に業容を拡大している。

青木CEOがターニングポイントとして挙げるのが、高崎市内にあった3つのプラント体制から脱却し、製造力の強化を図るべくM&A(企業の合併・買収)により08年に取得した、現在のタニガワプラントの存在だ。以後、M&Aを積極的に展開している。

最大の試練は、「当時、全体の約20%を占めていた主要顧客が飲料事業から撤退したとき」であった。製造ラインが空き、工場の稼働に大きな影響を及ぼすことが懸念されたが、群馬県内の優良企業や全国規模で展開する大手小売企業との新規取引を開拓することで、この難局を乗り越え、工場の安定稼働に道筋をつけることに成功した。

現在、同社は榛名山の麓を拠点とし、コンビニや量販店、スーパーなどのプライベートブランド(PB)の飲料製造を主軸に、売り上げの約9割をPBが占める。残る1割がナショナルブランド(NB)およびオリジナル商品という比率となっている。

PBでメーカーとしての実力を蓄積

09年、父から事業を引き継いだ青木CEOは、中長期的な経営視点の下、PBへの提案営業を戦略的に強化。「NBは仕様が固定されているが、PBは商品企画から関与できるため、メーカーとしての実力を高める機会となる」と考えたからである。

現在、工場はハルナプラント(高崎市/3ライン)、タニガワプラント(利根郡/2ライン)、和歌山プラント(和歌山県/1ライン)。23年にM&Aで取得した長野県の安曇野プラントと松川プラント(各1ライン)を含む計8ラインを保有し、全国に25の協力工場を有する。年間約6000万ケースを生産し、今期の売上高は360億円、営業利益は10億円(前期実績9億600万円)を見込む。

業績好調の要因のひとつは、PB市場の拡大である。かつては「安かろう悪かろう」の印象があったが、今や「NBと同等の品質で手頃な価格帯」という認識が浸透し、追い風となっている。

加えて、同社が長年培ってきたマーケティング力、企画・提案力、商品開発力が一体となって機能し、前期には新規に100アイテム以上を開発。ハルナウォーターによるミネラルウォーター事業の好調も業績に寄与している。

ハルナイノベーションセンターの誕生

24年12月に稼働を開始した「ハルナイノベーションセンター」は、One to Oneマーケティングによる独創的な商品を、オープンイノベーションによって迅速に生み出す中核施設である。木造2階建て、延べ床面積1497㎡。日本建築家協会会長の建築家・佐藤尚巳氏が設計を手掛け、榛名山の自然美を取り入れた切妻屋根が特徴的だ。

省エネルギーとカーボンニュートラルに配慮した設計で、ハイサイト窓から自然光がふんだんに差し込む。1階には商品開発Labや素材開発LabなどのR&Dゾーン、飲料プロデュースを体験できるギャラリーエリア、試飲や商談に活用できるカフェエリアを設置。2階には研究開発、管理、物流、製造部門などのオフィスが集約され



ハルナイノベーションセンターの研究開発、管理部門

ている。なお、センターは毎週金曜日に一般公開しており、見学希望者は2日前までに公式サイトから予約可能だ。

HARUNAブランドと文化振興への取り組み

今後は、オリジナルブランド「HARUNAブランド」の育成にも注力する。現在、谷川連峰の硬度25の軟水を用いた「ハルナ オモテナシ天然水」や、ほうじ茶・レッドルイボスティなどの「ハルナ オモテナシシリーズ」を展開。PB商品と競合しないよう高級路線や紙パック商品の開発、事務用品宅配網を活用した業務用展開などの工夫も講じている。さらに、飲料にとどまらず、レトルトカレー、ゼリー、プリン、グミなど食品分野への参入も視野に入れており、将来的にはオリジナル商品の売上構成比20%を目指している。

また、文化振興の一環として、20年4月には創業者・青木清志氏が蒐集した美術作品を展示する「榛名美術記念公園」(一般社団法人榛名美術運営)を開設。創業から6年間暮らした旧居を改装し、美術館として公開している。入場は無料。

同館は「美術の館」と「彫刻の杜」で構成されており、「美術の館」ではピカソのリトグラフ「ドン・キホーテとサンチョ・パンサ」、ロダンの彫刻「鼻のつぶれた男」、藤田嗣治の作品などを展示。庭園を活用した「彫刻の杜」には、ギリシャ神話のゼウスをモチーフとした大理石像が置かれ、年に1度のペースで展示内容が入れ替えられる。25年3月にはカフェも併設された。

同社は26年に創業30周年の節目を迎える。榛名のせせらぎから始まった一筋の流れは、やがて水量を増し、川幅を広げ、大河となって業界を潤していくであろう。

Company Overview

群馬本社:〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3
☎027-387-0101(代) FAX.027-387-0102
東京本社:〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル2F
☎03-3275-0191(代) FAX.03-3275-0192
ハルナイノベーションセンター:〒370-3531 群馬県高崎市足門町339-1
☎027-386-3541
<https://harunabev.co.jp/>